

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 155 件

2009 年 8 月



屋上の様子

病院機能評価認定を受けました

副院長 猪谷泰史

平成 15 年より始まった本館建て替えと駐車場整備も、本年 1 月に駐車場整備が完了してやっと一段落しました。平成 18 年の新棟運用開始から 3 年、駐車場不足のため外来受診にもご不便をお掛けしていましたが、雨に濡れずに乗り降りができる屋根付き車椅子専用駐車スペースを含む 300 台収容の駐車場が完成し、病院らしくなりました。

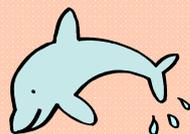
整備終了を待って県立病院では最後になりましたが、こども医療センターは本年 1 月末に病院機能評価バージョン 5 を受審しました。受審に当たって昨年 1 年間は看護局が中心となり、病院全体が一丸となって準備に取り組みました。こども医療センターは小児病院という特殊な業態に加えて、小児精神科病棟や肢体不自由児施設・重症心身障害児施設という福祉施設を有するため、評価項目との整合性に非常な苦心をしました。しかし、日本有数の小児専門病院として長年患者と家族に寄り添った医療を続けてきた実績を基に、自信を持って受審に臨みました。訪問審査では厳しいご指摘を受ける点もいくつかありましたが、逆に患者家族のための安全フォーラム開催や開所後継続して発行しているこども医療センター医学誌などお褒めの言葉をいただく点も多く、概ね順調に審査は進みました。中間的結果報告でも、改善要望事項は 1 項目で、補充的審査受審の必要はないとされました。6 月 5 日付で財団法人日本医療機能評価機構より病院機能評価の適格認定がされ、6 月 23 日には日本医療機能評価機構ホームページにも掲載される予定です。

これまで受審に向けて改善に取り組んだ多くのことが、これからも継続できるように、また取り組んだときの気持ちを忘れることなく、見直しと改善を続けていくことが重要と考えています。

来年は一般地方独立行政法人神奈川県立病院機構へと移行しますが、名称は「神奈川県立こども医療センター」と変わりません。これからも、「こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します」この基本理念のもと、地域の医療機関との連携をさらに深め、高度・先進的な医療を進めて行きたいと考えています。



新生児聴覚スクリーニングについて



耳鼻いんこう科 小河原 昇

生まれながらにして難聴がある小児は、早期診断と早期支援がなされないと音声言語の発達が遅れ、社会生活に支障が生じます。

新生児聴覚スクリーニング(以後、新スクと略す)が行われるようになり難聴の診断時期は格段に早くなり、現在では生後6カ月までに補聴器を装用するのが目標になっています。当センターでも産科で生まれた新生児(希望者のみ)とNICU入院児に新スクが行われています。

新スクで refer(要精査)となった新生児は耳鼻咽喉科に紹介され精密聴力検査を受けることとなります。2009年3月現在、新スク後の精密聴力検査機関として日本耳鼻咽喉科学会が推薦する医療機関は、県内に当センター含め6施設あります。当科ではABR(聴性脳幹反応)と比べ周波数特異性が高いASSR(聴性定常反応)を用いて検査を行っています。昨年の調査では、神奈川県内で新スク後に難聴のために療育が必要と考えられたお子さんは60人で、内24人は当科で最終診断を行っていました。難聴のために療育や教育が必要と考えられたお子さんは当センター言語聴覚室や他の療育施設に紹介し、早期に支援を受けられるようにしています。



聴力検査(言語聴覚室内)



音が聴こえボタンを押すと、
ご褒美に電車が動き出します。



神経科学に基づくよりよい治療を目指して

神経内科 小坂 仁

神経細胞は、他の多くの細胞から神経伝達物質を受容体に受け取ることにより、情報伝達を受けます。これらの総和としての細胞興奮は、軸索を経て神経終末に運ばれ、次の神経細胞に伝えられます。発達遅滞や自閉症などの発達障害では、これらのどの過程に問題があるのか徐々に明らかになって参りました。注意欠陥多動性障害(AD/HD)での、神経伝達物質の再取り込み阻害薬による治療効果はめざましいものがあります。てんかんの発作に対しては種々の受容体に作用する第二世代と呼ばれる副作用の少ない治療薬や、興奮の全般化を防ぐケトン療法との組み合わせで、さらに効果的な治療が可能です。脳性麻痺の患者さんにも局所注射による神経終末からの伝達物質放出阻止による痙性の治療を、リハビリ科・整形外科の協力のもと行っています。神経系の問題は、多臓器の異常を長期にわたりもたらすため、院内および地域の多くの方々にお世話になっております。我々は神経系の構造異常や機能異常を可能な限り明らかにすることにより、今ある困難を少しでも楽にする方法を実践し、患者さんとその家族が希望をもって生活して頂けるよう心がけて診療に当たっております。

平成20年度 地域医療支援事業に関する実績

※ () は19年度実績

1 地域医療支援病院紹介率

96.1% (96.4%)

初診患者数 7,367 (7,507) 人 対前年比 98.1%

紹介患者数 6,727 (6,851) 人 対前年比 98.2%

2 登録医療機関の数

144施設 (111施設)

地域		医療機関数	
横浜市	南部医療圏	南区	15
		港南区	14
		中区	13
		磯子区	9
		金沢区	10
		栄区	4
		小計	65
その他の区		30	
横浜市計		95	
川崎市		15	
その他県域		33	
東京都		1	
合計		144	

3 紹介元医療機関数

1,616 施設 (1,480 施設)

病院 375 (353)

診療所 1,136 (1,020)

保健所 40 (43)

児童相談所 7 (7)

その他 58 (57)

(療育センター、学校、外国医療機関等)

<病院・診療所内訳>

地域		病院	診療所	
横浜市	南部医療圏	南区	1	58
		港南区	4	69
		中区	2	35
		磯子区	1	34
		金沢区	4	41
		栄区	1	20
		小計	13	257
その他の区		39	406	
横浜市計		52	663	
川崎市		13	47	
その他県域		72	339	
神奈川県計		137	1,049	
東京都		44	35	
その他の道府県		194	52	
合計		375	1,136	

4 救急医療の提供

	平成20年度	平成19年度
救急外来の受診患者数	4,784 (1,055) 人	4,901 (1,052) 人
うち救急用又は患者輸送用 自動車により搬入した救急患者数	534 (258) 人	545 (260) 人
うち上記以外の救急患者数	4,250 (797) 人	4,356 (792) 人
産科救急患者数 (未受診の救急隊からの搬送を含む)	142 (142) 人	98 (98) 人
NICU直入患者数	76 (76) 人	83 (83) 人
計	5,002 (1,273) 人	5,082 (1,233) 人

※ () の人数は、それぞれの患者のうち入院を要した人数

【平成 21 年度 学習会・研修会予定】

内 容	日 程
学術集談会	6/13, 12/12
心臓血管外科学習会	5/22, 11/20, 3月(未定)
循環器連携カンファレンス	4/24, 6/26, 10/23, 2/26
神奈川胎児エコー研究会	4/26, 7/26, 10/11-12, 12/16, 2/21
母性育児学習会	5/29, 11/27
NST 勉強会	7/17, 9/4, 11/10, 1/15, 3/9
ハートキッズセミナー	6/6, 3/13

【平成 20 年度 研修会・勉強会 実績】

対象者	日 程	テ ー マ
第 6 回小児科 夏季セミナー		
小児科医・小児科志望 研修医、登録医療機関	8月2日(金) 8月3日(土)	小児科(救急診療科を含む) 10 コマ 外科、形成外科、放射線科、児童思春期精神科 計 14 コマ
NST 勉強会		
医師、看護師等	4/18, 6/16, 8/15, 10/17, 12/22, 2/6	①こども医療センターのNST紹介 ②成長の「しくみ」を知ろう ③小児の摂食機能の発達とその障害 ④嚥下機能の基礎と臨床 ⑤胃ろうと半固形化、GER ⑥JSPEN参加報告
心臓血管外科学習会		
医師・看護師等	4/25, 11/14, 1/30	①症例検討 ②特別講演：「重症先天性心疾患に対する外科治療戦略」
循環器連携カンファレンス		
医師・看護師等	5/23, 7/25, 9/19 11/28, 2/20	①症例検討：「紹介いただいた症例の報告」 ②特別講演：「先天性心疾患の運動負荷試験と運動処方」
母性育児学習会		
医師・助産師・看護師等	5/30, 11/23	①一人目の母乳育児がうまくいかなかった 母親へのカウンセリング ②唇顎口蓋裂(口唇口蓋裂)を持つ 赤ちゃんへの母乳育児支援
神奈川 胎児エコー研究会		
医師、技師、助産師、 看護師等	5/11, 8/10, 10/12, 12/21, 2/1	①わかりやすい胎児脳エコー入門 ②二分脊椎の外科治療 ③特別講演：STICを使ったCHDのスクリーニング ④総肺静脈還流異常症IIaのSTICによる後方視的検討 ⑤3Tview単独異常症例の検討
心臓血管外科、地域医療連携室		
患者・家族・地域住民	4/19, 11/8	ハートキッズセミナー



安全フォーラムの開催



医療安全推進室 伊藤清子

こども医療センターでは、平成 16 年に医療安全推進室が設置され専従の医療安全管理者が配置されました。医療安全推進室の役割は、医療安全に関わるルールを整え、情報収集や情報発信をおこない、組織横断的に医療の安全を推進することです。所内では、年に 5 回の医療安全セミナーを開催し、うち 2 回は登録医療機関にも公開しています。

昨年 11 月には、初の試みで患者さんご家族を対象とした「安全フォーラム」を開催いたしました。医療事故防止には、患者さんやご家族の協力が欠かせません。この「安全フォーラム」開催の目的は、①家庭でも病院でも起きるこどもの事故を防止すること②患者さんご家族とのパートナーシップを推進することです。緑園こどもクリニックの山中龍宏先生にも講演にご協力いただきました。ポスター展示では、病院で起きている事故や、安全な粉ミルクの作り方、感染防止対策、家庭で起きるこどもの事故などの内容で 1 ヶ月間展示しました。現在もこどもの安全に関する情報展示を継続しています。今年度も秋に展示を中心とした「第 2 回安全フォーラム」開催にむけて準備をしています。

今後も「こどもの生命と安全を守る」ために、地域の病院の方々にも参加していただける医療安全セミナーを開催していく予定です。



「安全フォーラム」のポスター展示



こどもの安全情報を常設展示



地域医療連携システムを導入しました



地域医療連携室 山本美和

この度、念願としていました地域医療連携システムを導入することができました。ご紹介いただいた患者さんの初診時には、地域医療連携室から直接来院の報告をさせていただきます。何らかの理由で受診されない場合もご報告させていただきます。担当医からのご報告は受診後 2 週間を目処に送らせていただく予定ですが、地域医療連携室で報告書の作成状況を確認できるようになりましたので、報告漏れのないようにしたいと考えています。また、診療情報提供書も作成できるようになりましたので、逆紹介をさらに積極的に進めたいと考えています。このシステムの導入により、医療機関情報、紹介患者情報、予約台帳、新患来院記録等ができるようになり、予約状況等のお問い合わせにも役立っています。

今後は連携の一助となるよう、運用を進めていきたいと思っております。何分新しいシステムですので、慣れるまで今しばらくお時間をいただければと思いますが、導入後もシステムの改良を続けたいと考えておりますので、ご要望・ご意見がございましたら地域医療連携室までご一報いただけると幸いです。



平成 21 年 6 月取得

神奈川県立子ども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

子どもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

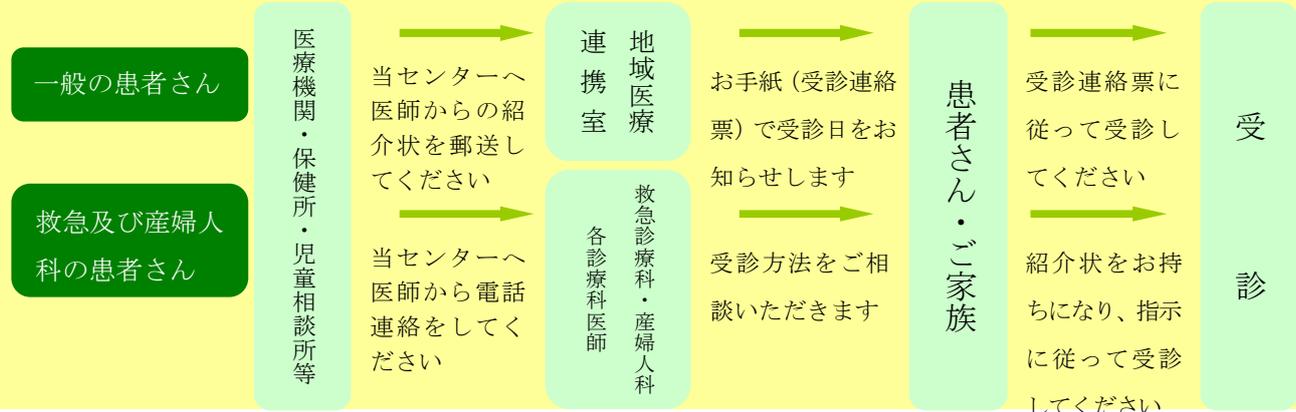
あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立子ども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市内南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo>

